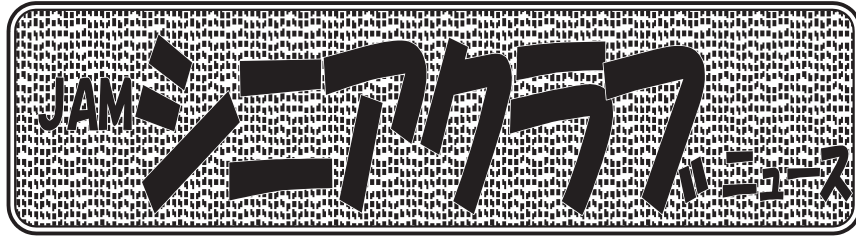


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第134号

発行日 2018年10月25日
発行者 JAMシニアクラブ
http://jam-senior.club
mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本内部 〒105-0014 電話03-5440-7388 fax03-5440-7389

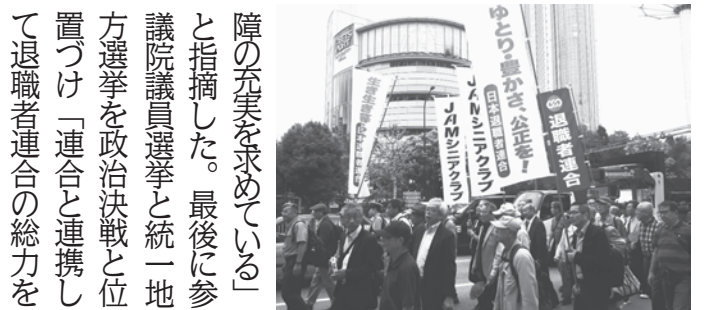
JAMシニアから31人が元気に参加 生き生きと安心して暮らせる社会を

全国高齢者集会とデモ行進

9月12日、「生き生きと安心して暮らせる社会」づくり退職者連合をスローガンに文京シビックホールで全国から2000人が参加して全国高齢者集会が開催された。集会では退職者連合、連合、政党、労働福祉団体の挨拶や西日本豪雨災害緊急報告、長野県諏訪湖環境美化運動報告、内閣府のエイジレス・ライフ実践事例及び社会参加事例事業の公演と表彰が行われ、終了後は元気にデモ行進した。

集会の冒頭、退職者連合人見会長は挨拶で大阪北部地震、西日本豪雨災害、台風21号による災害、北海道胆振

社会保障は「必要な財源を確保して持続可能な制度にすべきだ」と述べ、そのためには「良質な雇用と賃金の引上げ、所得再配分機能の強化、税制改革が必要だ」と強調した。さらに「通常国会は嘘と付度と強硬採決の国会だった。責任はすべて安倍首相にある」と強調。そのうえで安倍政権の憲法改悪の動きには「国民は憲法改正より経済政策や社会保



障の充実を求めている」と指摘した。最後に参議院議員選挙と統一地方選挙を政治決戦と位置づけ「連合と連携して退職者連合の総力を結集して、連合が推薦するすべての候補者を勝利させ安倍政権を退陣に追い込もう」と挨拶した。その後、神津連合会長、海江田立憲民主党顧問、玉木国民民主党代表、又市社会民主党党首が連帯の挨拶をした。

8月30、31日、JAM第20回定期大会を開催しましたが、この一年間は激動の一年間でありました。特に、就任早々に支持政党である民進党が砂上の楼閣のごとく崩れ去り、苦渋の日々を過ごして参りました。JAMは国民民主

を軸とし、「田中ひさや」を国民民主党公認とすることを決定しましたが、これからは「なぜ国民民主党なのか」という組合員の素朴な疑問に答えていかなければなりません。そのため国民民主党の参議院選挙公約の中にJAMの政策を織り込んでもらうように交渉を続

中小企業政策実現へ

田中ひさやを国会に送る

JAM会長 安河内 賢弘

企業が担っています。従って中小企業の賃金を上昇させなければ個人消費の伸びは期待できません。また、中小企業の多くは地方にあります。従って地方経済の活性化には中小企業の発展が欠かせません。さらに、欧米諸国にお

先にあるものは何か、それは企業規模に関わらない同一価値労働同一賃金の実現です。中小企業政策を経済政策の中心に据えることが「田中ひさや」を国会に送る最大の意義です。必勝に向けて全力で取り組んでまいります。

主張



院選挙公約の中にJAMの政策を織り込んでもらうように交渉を続

中小企業の発展のためには大企業との正当な取引条件、公正な競争条件を実現し、中小企業の経営環境を改善する一方、競争主体としての力を強化するため経営の高度化を図る必要があります。では、経営環境の改善、経営の高度化の

集会の最後に「高齢者の暮らしと若者達の未来を守るために、ゆがめられた政治を正そう」との集会アピールを採択した。集会終了後、現役に負けない元気さと大声で西神田公園までデモ行進した。JAMシニアからは首都圏地方、本部、幹事の31人が参加した。

山 「なんとかなるは通用しない」 富 防災意識と危機管理を学習

村上 和幸 通信員

富山県は過去にも自然災害が発生しており安心できない。『今度も大丈夫』や『なんとかなる』という経験や考えは通用しない、場合によっては最悪の結果になる。

9月17日に富山県砺波市の越中庄川荘で開

催した富山シニアクラブ全体研修会の講師からのコメントである。

2018年は多くの自然災害が発生したことから、富山県は比較的

自然災害が少なく、言われているが「本当に大丈夫なのか確認したい」という声があり

また、大規模災害が

発生した場合、行政（公助）の対応には限界があるので、自分の身は自分で守る（自助）や自主防災組織（共助）が重要であること。

更に、「今度も大丈夫」や「なんとかなる」という「正常化の偏見（正常性バイアス）」により避難が遅れることで犠牲者が発生している実態から、過去の「大丈夫だった」とい

富山県の災害についてをテーマに富山県総合政策局防災・危機管理課の長岡憲秀氏を招いて講演会が行われた。

講演では、富山県の過去の自然災害の事例や、富山県にも大きな活断層があり、マグニチュード7クラスの大地震の可能性があることが紹介された。

富山県は過去にも自然災害が発生しており安心できない。『今度も大丈夫』や『なんとかなる』という経験や考えは通用しない、場合によっては最悪の結果になる。

9月17日に富山県砺波市の越中庄川荘で開

催した富山シニアクラブ全体研修会の講師からのコメントである。

2018年は多くの自然災害が発生したことから、富山県は比較的

自然災害が少なく、言われているが「本当に大丈夫なのか確認したい」という声があり

また、大規模災害が

発生した場合、行政（公助）の対応には限界があるので、自分の身は自分で守る（自助）や自主防災組織（共助）が重要であること。

更に、「今度も大丈夫」や「なんとかなる」という「正常化の偏見（正常性バイアス）」により避難が遅れることで犠牲者が発生している実態から、過去の「大丈夫だった」とい

う経験は役に立たず、常に「想定外」を想定し、自らの状況を判断し身を守ることが重要だという説明を受けた。

参加者からは、「富山県も安心できない」「早めの避難が重要」など、

講演を通じて防災に対する意識の向上が見られた。防災に続き、砺波市生涯学習・スポーツ課の村上千昌氏から単純だが普段おこなわない動きをすることで手足の神経や頭を鍛えることができる、コー

ディネーショントレーニングという運動を学んだ。笑いがあふれる和やかな雰囲気の中、心地よい汗をかくとともに、健康への意識も向上した。



朝早くからありがとうございました

JAMは2019年に行われる参議院比例区組織内予定候補者として「田中ひさや」副会長を擁立することを決定しました。これを受けシニアクラブは第9回定期総会で「田中ひさや」副会長の推薦を決定しました。議席獲得に向けてみなさんのご支援をお願いします。（JAM甲信ミクナスFE労組の門前にて）



愛媛シニアクラブは8月26日、松山の井関農機方組会議室で政策・制度学習会を「愛媛県在宅介護研修センター」

愛媛 政策・制度学習会を開催 介護保険制度利用のポイント学ぶ

藤井 正剛 通信員

の協力を得て開催した。当日も朝から厳しい猛暑でしたが、シニアの役員や会員を中心に6つの自治体から26人が参加。講師は研修センターの「愛と心えひめ」管理人兼主任ケア

マネの鈴木大氏から「どうなる介護、制度の概要と利用のポイント」の演題で、プロジェクトを使い、質疑も含め2時間20分に亘り学ぶことができた。

要旨は介護の事態に直面した場合、一人で抱え込まないために人や制度と上手に繋がっていくことの重要性。そのために相談できる場所、介護保険サービスの種類や利用できる医療、障害・生涯福祉など周辺制度のツボ、知らない損をする助成制度、介護費用に関することなど、介護サービスを利用されている方も、介護に備え知っ

ておきたい方にも、利用のポイント（介護が必要になった時、先ずすべきこと。ケアマネジャーの選び方。プラン作成時のポイント。費用と各種助成。介護を予防するためにすべきこと）を判りやすく説明頂き好評だった。

質疑が8件あり、その中で介護職員の給料が一般に比べ低すぎることに、介護認定要件の緩和等の要望に対し、役員から補足して制度の見直しを伴う課題だけに、組織内議員を増やすのが近道、来年の統一地方選、参院選の推薦候補必勝へ再協力要請も行なった。

講演を通じて防災に対する意識の向上が見られた。防災に続き、砺波市生涯学習・スポーツ課の村上千昌氏から単純だが普段おこなわない動きをすることで手足の神経や頭を鍛えることができる、コー

ディネーショントレーニングという運動を学んだ。笑いがあふれる和やかな雰囲気の中、心地よい汗をかくとともに、健康への意識も向上した。

らによりJAM静岡定期大会議案書に活動報告・活動計画を記載していただき、定期大会当日に5分程の提案の時間をもらいこの活動報告・計画を議案として審議。そのため構成組合にもシニアクラブの理解がある程度進んでいると思われる。

今年には新聞会長、菅沼副会長、二村事務局長が出席（勝亦副会長、鈴木副会長は都合により欠席）。紹介を受けた後、JAM静岡の各専門部と同様に議案として提案、審議、採決された。特に今年には会員募集について現役の協力が必要であるので今後ともよろしくお願いしたいと提案した。夜の懇親会にも参加し、現役との懇談も充分に行い交流を深めた。



岡 JAM静岡第20回定期大会で シニアの活動報告と方針を提案

二村 政司 通信員

JAM静岡シニアクラブ（JAM静岡定年退職者OB会）は、9月8日（土曜日）に焼津グランドホテルで行われたJAM静岡第20回定期大会でシニアクラブの二村事務局長が2018年度活動報告と2019年度の活動計画を提案し了承された。

毎年、当シニアクラブは、JAM静岡の計

らによりJAM静岡定期大会議案書に活動報告・活動計画を記載していただき、定期大会当日に5分程の提案の時間をもらいこの活動報告・計画を議案として審議。そのため構成組合にもシニアクラブの理解がある程度進んでいると思われる。

今年には新聞会長、菅沼副会長、二村事務局長が出席（勝亦副会長、鈴木副会長は都合により欠席）。紹介を受けた後、JAM静岡の各専門部と同様に議案として提案、審議、採決された。特に今年には会員募集について現役の協力が必要であるので今後ともよろしくお願いしたいと提案した。夜の懇親会にも参加し、現役との懇談も充分に行い交流を深めた。

講演を通じて防災に対する意識の向上が見られた。防災に続き、砺波市生涯学習・スポーツ課の村上千昌氏から単純だが普段おこなわない動きをすることで手足の神経や頭を鍛えることができる、コー

ディネーショントレーニングという運動を学んだ。笑いがあふれる和やかな雰囲気の中、心地よい汗をかくとともに、健康への意識も向上した。

らによりJAM静岡定期大会議案書に活動報告・活動計画を記載していただき、定期大会当日に5分程の提案の時間をもらいこの活動報告・計画を議案として審議。そのため構成組合にもシニアクラブの理解がある程度進んでいると思われる。

今年には新聞会長、菅沼副会長、二村事務局長が出席（勝亦副会長、鈴木副会長は都合により欠席）。紹介を受けた後、JAM静岡の各専門部と同様に議案として提案、審議、採決された。特に今年には会員募集について現役の協力が必要であるので今後ともよろしくお願いしたいと提案した。夜の懇親会にも参加し、現役との懇談も充分に行い交流を深めた。

講演を通じて防災に対する意識の向上が見られた。防災に続き、砺波市生涯学習・スポーツ課の村上千昌氏から単純だが普段おこなわない動きをすることで手足の神経や頭を鍛えることができる、コー

ディネーショントレーニングという運動を学んだ。笑いがあふれる和やかな雰囲気の中、心地よい汗をかくとともに、健康への意識も向上した。

らによりJAM静岡定期大会議案書に活動報告・活動計画を記載していただき、定期大会当日に5分程の提案の時間をもらいこの活動報告・計画を議案として審議。そのため構成組合にもシニアクラブの理解がある程度進んでいると思われる。

今年には新聞会長、菅沼副会長、二村事務局長が出席（勝亦副会長、鈴木副会長は都合により欠席）。紹介を受けた後、JAM静岡の各専門部と同様に議案として提案、審議、採決された。特に今年には会員募集について現役の協力が必要であるので今後ともよろしくお願いしたいと提案した。夜の懇親会にも参加し、現役との懇談も充分に行い交流を深めた。



講演を通じて防災に対する意識の向上が見られた。防災に続き、砺波市生涯学習・スポーツ課の村上千昌氏から単純だが普段おこなわない動きをすることで手足の神経や頭を鍛えることができる、コー